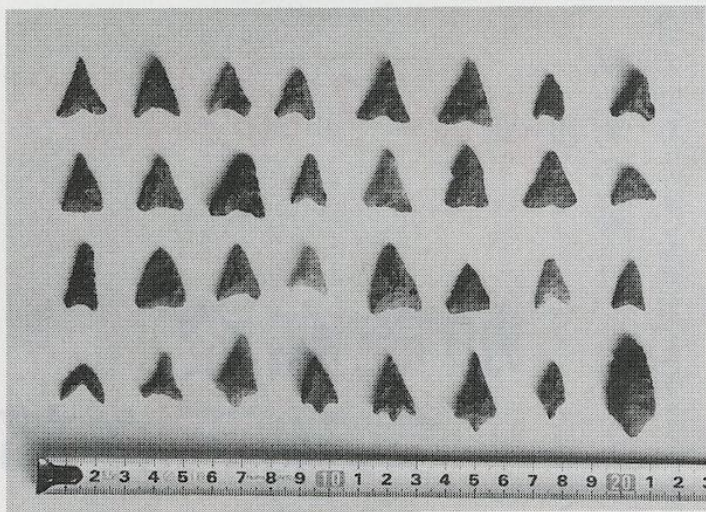


## 土の中からのメッセージ⑦

縄文人は食糧の獲得のために採集、狩り、漁などを行い、豊かな自然からの恵みを得ていました。四季の中でも冬の時期は、狩りに重点がおかれました。各地の遺跡から出土する骨からみて、ノウサギ、イノシシ、タヌキなど多くの種類の動物が対象となっていたようです。

狩りの道具としては槍やり、弓矢などがあげられます。矢は、投げ槍に比べ、ずっと速く、遠くまで飛び、また軽くて持ち運びに便利であったため、より多く



(協力・渡辺休一さん)

使われるようになりました。矢の先につける石鏃せきざく(やじり)は、さまざまな形があり、石材もバラエティーに富んでいます。

左上の写真は伊深町上本郷地内の畑で多数採集された石鏃の一部です。かつての狩猟生活を裏付ける貴重な資料といえます。

今回は、次の方々から貴重な資料を寄贈いただきました。ありがとうございました。

(平成四年九月、十月分)

○雛人形、土雛 一式

(尾川勇さん／三和町)

○煉炭れんたんつくり器など 七点

(酒向務さん／三和町)

○ふいご 一点

(酒向保一さん／三和町)

○ハンゾウ(半挿) 一点

(井戸正二さん／田島町)

○打製石斧 一点

(渡辺美喜夫さん／川合町)

○昭和初期のバイオリン 一点

(堀部照子さん／中富町)

○トンビ(袖無し外套)がいとう 一点

(上田史朗さん／中富町)

近い将来の博物館建設に向けて情報や資料を集めています。

資料は見せていただくだけでも結構ですので、市社会教育課

(☎内線362) まで情報をお寄せください。